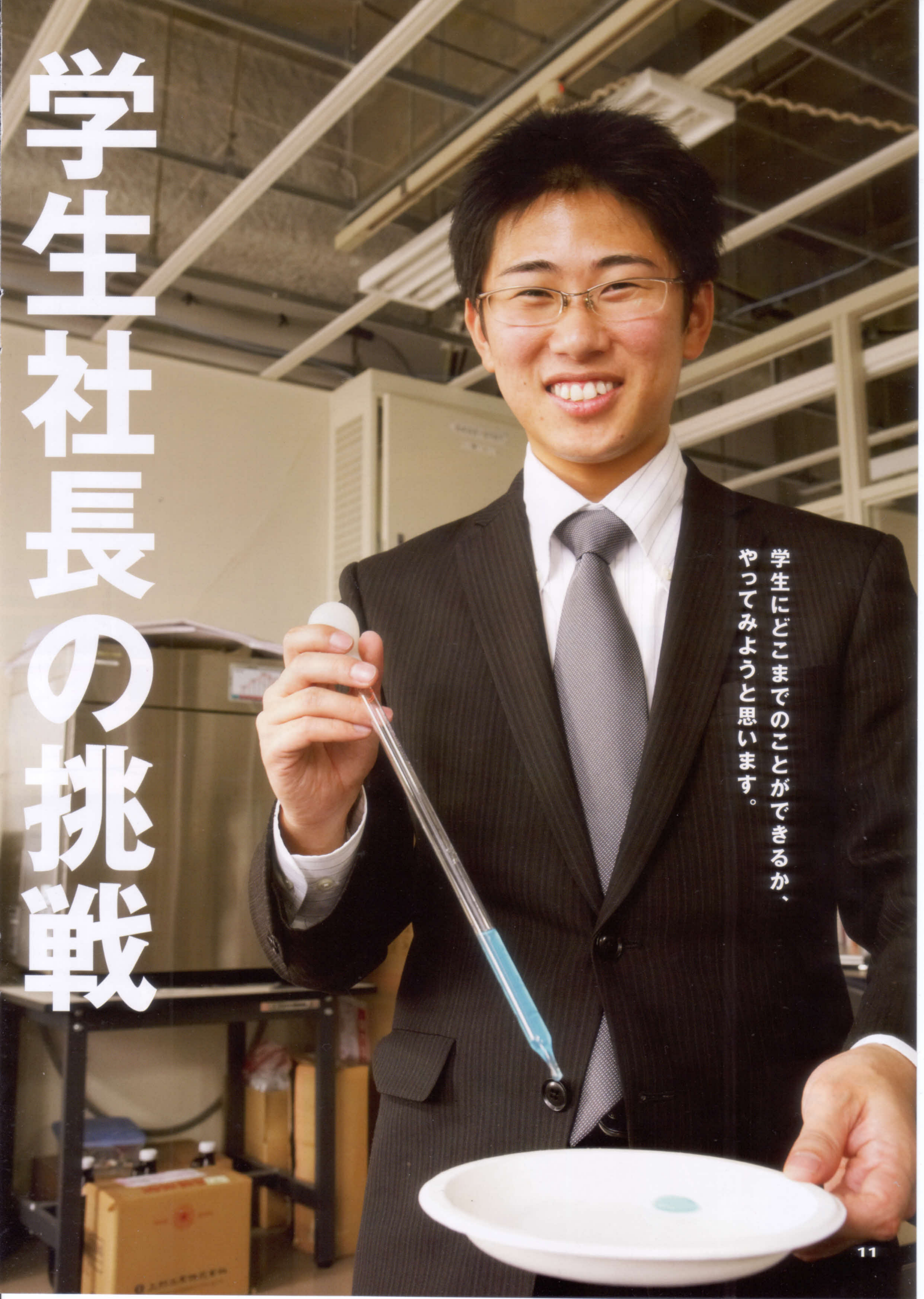
学生社長の挑戦



学生にどこまでのことができるか、
やってみようと思います。

大久保雄司

大久保雄司さんが取り出したのは、どこにでもある普通の紙皿。この上に水をたらすと、ビー玉のようにコロコロと大きな水玉が転がっていきます。今度はガラスに油性マジックで字を書こうとすると…書けない!?不思議な光景に取材陣から歓声が起こりました。

『かがわ学生ベンチャー（KGV）』は香川大学で3番目に誕生したベンチャー企業で、学生だけでスタートした会社としては香大初の会社になります。取り扱っているのは、工学部の小川教授が有する水や油を弾く技術の特許を実用化した『撥水処理薬剤』。従来の撥水加工に比べて膜厚が目には見えないほど薄く素材の光沢や風合いを損なわないこの技術は、繊維やガラスなど様々な商品への応用が期待されています。今もいくつかの製品が発売に向けたテスト段階にあるのだとか。

社長の大久保さんは小川教授の研究室に所属し、研究開発担当としてベンチャー誕生当時からKGVに関わってきました。そんな大久保さんに、先輩の先代社長から『社長をやりませんか』と声がかかったのは3年前のことです。

「想像したこともなく、戸惑いもありましたが『人生は一度きり。こんな機会は滅多にない！』と決断しました」

仕事と研究の両立は大変では？

「お互いが刺激しあっていますよ。お客様からのお問い合わせで『こんな風にも使えるんだ』という発見もあり、それが新たな研究へ繋がっています。一番難しいのは会社と研究にかける時間のバランスで、最近は比重が会社に傾きつつありますが、1つの事に没頭せずアンテナは常に広く持とうと意識しています。勿論ギターやサッカーなどの趣味の時間も確保していますよ」

地方大学で面白いことをやっていると伝えたい、学生にどこまでできるか挑戦したいという大久保さん。目標を胸に、忙しくもやりがいのある日々を送っています。

「せっかくこんなに面白い技術がある。次の世代が研究を続けていけたら、もっと面白いことができるはず。ですから、大学に教員として残りながら会社も続けたいと思っています」

同じように、進路を考えている高校生へのメッセージをお願いしました。

「大学で何をやるかは自分次第。つねにアンテナを張って、面白いことを探し続けてください。面白いことが1つ見つかると、それが次に繋がり、面白い人との繋がりも大きくなり、きっといい流れになると思います。香川大学では実用的な研究が活発に行われていて、企業出身の教授も多いのでユニークな視点に大きな影響をうけますよ」

工学部に入り、小川教授との出会いによって社長となった大久保さん。経営者の顔、研究者の顔、そして後輩を育てる先輩の顔。様々な顔をもつ学生社長の挑戦は続きます。

KEYWORD

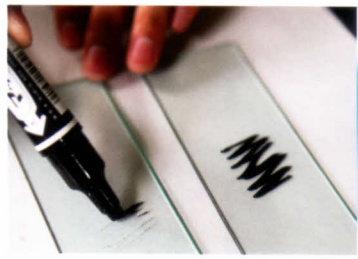
有限会社 [かがわ学生ベンチャー] (KGV)

香川大学工学部発の現役学生による学生ベンチャー。小川教授の特許をもとにした新技術の開発と、製造業をサポートする新用途の開発を行っており、設立以来黒字経営を維持している。従来の1000分の1の厚さの撥水コーティングは、素材の通気性や風合いを損なわないのが特徴だ。

http://kagawa-gv.com/index.html

PROFILE

おおくぼ　ゆうじ
有限会社 かがわ学生ベンチャー
取締役社長
香川大学大学院工学研究科
材料創造工学専攻
博士後期課程2年



ガラスに書いたそばから消えていく油性マジックの線。
普通のガラス板に書いた場合との差は歴然です。

紙皿の中で生き物のように転がる水滴。
見ているだけでも楽しい新技術です。

続けられる限り書いていきたいと思っています。

はにかんだ笑顔が印象的な渡辺さんは、教育学部の3年生。隣の達筆は渡辺さんが出品した［第12回全日本高校・大学生書道展］の大賞作品で、横2尺、縦8尺に唐の詩人・劉長卿の漢詩がしたためられています。その筆運びに圧倒され、最後に目に留まったのが『菜婉』という2文字。

「先生にいただいた雅号なんです。平成16年だから…高校生の、師範試験の時期ですね。本名の1文字と、先生のお知り合いの書道家の方から1文字いただいて『菜婉』になりました。『婉』には『おだやか、しなやか』という意味があり、そうなってねという願いもこもっているそうです（笑）。幼稚園からずっと見ていただいていますから、もう先生は親のような方で…」

書道を始めたきっかけは、幼稚園の時に親戚の通う書道教室のお迎えに付いていったことだという渡辺さん。お兄さんお姉さんに憧れて習い事を始めるのはよくある話、途中で投げ出すのもよくある話ですが、大学入試の時期を除くとずっと書道を続けてきました。

「止めたいと考えたことはないのですが、師範試験を受ける辺りでスランプに苦しみました。書きたい字が書けないんです。似たような字しか書けなくて、自分の字に面白みを感じない。1、2年くらいこんな時期が続きました」

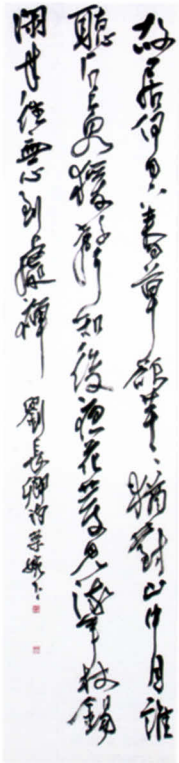
しかし、それでも書くことを止めなかった渡辺さん。師範試験に受かってから今回の大賞をはじめとする賞を受賞し、スランプを脱した手ごたえを感じています。今は教育学部の英語研究室で英語を学び、塾で英語講師のバイトもする忙しい日々ですが、書道のための時間は取れるのでしょうか？

「気分の要素も大きいので毎日書くわけではないんです。『今日はダメ』と思ったらすぐ中断しますし、すごくノって書けるときもある。どちらにしても、書くのは休日の空いた時間なので、スケジュールがからまったりすることはありませんよ。朝から墨をすり始めて、大体3～4時間くらい書きます」

楽しくないと続けられない時間ですが、渡辺さんにとっては長年続けてきた習慣。書いているときに他の事を考えることはないのだそうです。当然『将来は書道の先生に？』という声もあがりますが、渡辺さんが志望しているのは小学校か中学校の先生。書道は一生の趣味にしたいといいます。

「最近少し自分の好きな書き方が分かり始めてきました。『これは奈菜ちゃんの字だね』と言われるようになったんです。私の線はねばりがあるみたいで…まあ、これも味だから、それはそれでいいか、と（笑）。趣味として、この先も長くやっていけたらと思っています」

人生は始まったばかり。渡辺さんと共に、『渡辺さんだけが書ける字』も成長を続けます。



粘りのある筆跡に、渡辺さん自身とこだわりが見事に表現されています。

KEYWORD

［全日本高校・大学生書道展］

「書」の振興、発展を目的に活動する社団法人日本書芸院の主催で行われる学生書道のグランプリ。平成19年7月に審査が行われた第12回では、高校生6953点（767校）、大学生2700点（266校。短大・専門学校含）の出品があり、最高賞にあたる大賞に漢字25点、かな17点が選ばれた。

渡辺奈菜

PROFILE

わたなべ　なな
教育学部3年
雅号:渡辺 菜婉
（わたなべ　さいえん）